

# アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース  
SEKISHO ART MUSEUM  
MUSEUM NEWS  
Winter 2016

No.  
127



2006（平成18）年「石本正絵画教室」蟠竜湖にて

## 絵をかくよろこび

石本先生がわたしたちに残してくれたもの



石本正  
平成二十七年九月二十六日  
九十五歳にて逝去

石見の地に生まれた空想好きな少年は、戦後日本画界を代表する画家のひとりとなった。  
しかし彼は栄達の道を拒否し、真の美を求め続ける芸術一筋に生きた。

「画を描くのは楽しい　それは生きる喜びでもある」



1920（大正 9）年、島根県那賀郡岡見村（現在の浜田市三隅町岡見）生まれ。1940（昭和 15）年京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）に入学した。復員後第 3 回目展に「三人の少女」が初入選。以後 2 年間連続入選。1950 年より活動の場を創造美術（のちに新制作協会と統合）に求め、第 3 回創造美術展で「五条坂」・「踊り子」が入選。その後、独自の美を追求した鳥の連作や舞妓、裸婦の作品などで画壇の注目を集めた。1964 年よりしばしばイタリアをはじめとするヨーロッパを訪れ、中世ヨーロッパ美術に取材した作品を多く発表する。1974 年の創画会設立後は同会の中心的存在として活躍し続けた。

また京都市立芸術大学や京都造形芸術大学などで長年指導し、多くの後進を育てた。1971 年には第 3 回日本芸術大賞、第 21 回芸術選奨文部大臣賞を受賞したが、以後全ての賞を辞退。生涯、地位や名誉を求めることがなく己の表現を追及し続け、その姿勢とすぐれた表現力は多くの作家に影響を与えていた。

2001 年 4 月 7 日、ふるさとに石正美術館開館。2009 年まで画家自らによる絵画教室が開催され、絵を描く心とよろこびを伝え続けた。

2015 年（平成 27）年 9 月 26 日逝去。享年 95。



# 「人間の生命力を描いた画家」

小嶋 悠司（日本画家）

「石本という若くて立派な先生が美大にいるから、日本画に入つたらい」。大学進学を意識し始めた高校二年頃、父は口癖のようにそう言っていました。当時私は、将来、親の跡を継いで図案の仕事をしようと考えていたのですが、父のこの言葉がきっかけで美大を目指すことになりました。

父は京着物の図案家の仕事をしていって、絵専（京都市立絵画専門学校）現・京都市立芸術大学）を出られた方が何人も手伝つてくださっていましたし、仕事を通じて美大の先生も何人か知つていったようです。入学時はまだ京都市立大学という名で、奥村厚一先生（創造美術の創立会員）が教授をされ、石本先生は初めてのイタリア取材から帰国されて、助教授になっていたと思ひます。

石本先生が現地で触れたフレスコ画やエトルスク美術への感動を日本画で表現しようと試みられたのもちようどこの頃からでした。当時の先生は自分の仕事が第一で、学生のことなど目に入らなかつたようです。「どうや？ やつ

てるか。ウロウロしないで絵を描けよ」。そう言い残してすぐに大学の門を出、ご自分の仕事場に帰つて行かれ、研究会があるとき以外は、学校で顔を見ることはほとんどありませんでした。

ただ、一回生の頃、石膏デッサン室で指導してくださった時の言葉はよく覚えています。

「モチーフとして一番美しいのは女性の体や。今度描くカマキリかて、大きくて美人のカマキリを見つけてきいや。カマキリも描かれ甲斐も出てくるからな。それに何日かしたら死に甲斐もでてくるやろ…」。そう言った時に笑つたように見えたのが印象的でした。菊でも牡丹でも何でもいい。モデルは自分で探さなければいけない、ともおっしゃっていました。

「ピカソは見る場所を三ヶ所かかることで、立体的に見えるようにしたんだや。同じことが日本画では線一本でできる。これについてはマチスも格闘しているんや」。人体デッサンの時のこの言葉もとても印象に残っています。

し、この言葉は石本先生の絵を端的に表しているとも感じます。

日本画の村上華岳、速水御舟、そして油絵の青木繁。重く厚い彼らのデッサンは、彫刻家のデッサン」と呼んでいいと私は思います。これらの作家が描くデッサンには、すべて血が通っているように感じられるのです。それと同様に、石本正が描く人体、のみならず花のデッサンにも血が通っています。

そこには口ダンの人体デッサンに見える全ての愛を表しつくす感じがするし、御舟の精神の内にある神の世界を感じるところがあります。また、石本正のデッサンは人間の姿そのものの性格、強さ、先生の生きざま、そうした全てが、石本正の作品から滲み出ているように思うのです。

「田舎の子が京に出てくる。遠くから出てくる。その過程で、だんだんと

は、未完と言われる作品にあつて、それをしのぐ説得力を持つて訴えかけてくる。私が感じる先生の作品にみられます。『帰ろう』とい、うなづく。この眼差しがここに描かれる未完の情景に説得力を与えているのではない。作品の完成度ではなく、私はそれと同様に、石本正が描く人体、のみならず花のデッサンにも血が通つていています。

「えかった、えかった。フレスコや…」。一九八三年、創画展会場（東京都美術館）で、私の《穢土'83》という出品作を観てくださった後に石本先生が小走りで駆け寄つてこちらに立つたということでしょう。このあと、私は京都市立芸術大学に戻り、先生と一緒に学生を指導する毎日がしばらく続くことになります。

「えかった、えかった。フレスコや…」。一九八三年、創画展会場（東京都美術館）で、私の《穢土'83》という出品作を観てくださった後に石本先生が小走りで駆け寄つてこちらに立つたということでしょう。このあと、私は京都市立芸術大学に戻り、先生と一緒に学生を指導する毎日がしばらく続くことになります。

初出「月刊美術12月号」（発行：株式会社サン・アート）



# 「石本正先生との出会いそして旅立ち」

石正美術館館長 平坂 常弘



三十数年前、受験に失敗した私に、近所で開業医をされていた方が「同級生で石本君という絵描きが京都で先生をしている。紹介状を書いてあげるから尋ねてみなさい」と声をかけて下さいました。当時の私には、有難い紹介でもあり逃げたいような話でもあり、何はともあれ雲をつかむような人との出会いの一歩でした。

紹介状を胸に、不安の中での京都の駅に降り立つも、知らぬ先生の門を叩く勇気はその時の私ではなく、複雑な気持ちで東京行の汽車に飛び乗ってしまいまし

た。思いつきだけで進路選択をしたことへの後悔と未知の世界への不安から逃避

し、先生との大切な出会いを自ら放棄してしまったのです。

会つたこともなく、単に故郷の先輩であるという石本先生の存在は、大学で日本画を専攻した私にとって、大きな心の支えであり心強いものでした。その時は思いは決して忘ることはできません。

卒業と同時に故郷に帰ってきた私に、美術館建設が進む中、当時の三隅町長から石本先生の美術館を作るから協力してほしいと話をいただき、平成十二年春、不思議なご縁で夢にまで見た石本先生との出会いが正式に始まりました。

京都のアトリエに初めてお邪魔したとき、山積みになつたデッサンや幾層にも重ねられた未完の作品、積み上げられたCDの数々、床に置かれた制作中の作品。何とも言えない喜びと居心地のよさを感じ、大変短い時間ではありましたが、至福の時間と一生忘ることのできない出会いをいたいたと感謝しております。

平成十五年に浜田市世界こども美術館で開催された「日本画の未来（あした）展」。石本先生が自ら探し求められた十

おいて、石本先生は、「今、このような作品を残しておかないと今後二度と見ることのできないものもある。心で描かれたものに勝るものはない。本物の絵は観るものに感動を与える心動かす。本物の作品を観る、見せることが一番大切なことであり教育である。石見の地に本物だけを蒐集し固有の文化を全国に発信したい。何が大切で、何が本物なのかを、私はこの地に記したい。」と熱く語られました。この先生の考え方や思いは生涯変わることはありませんでした。

石本先生の指導による裸婦や風景の教室でも、生徒の作品に手を入れることは決してされず、自ら描いて見せることで「心で捕えたものを自由に描く」ことの楽しさや大きさを多くの受講生に教えてくれました。

しかし平成二十二年、新館のオープンを最後に、先生は足腰の痛みや体調維持のため故郷に帰ることを断念されました。「残された短い時間を大切にして、次々と湧き上がるイメージを一枚でも多く絵に残したい。絵が描けなくなつたら生きていっても意味がない。」と自分の歩んでこられた生涯を振り返るように、終日画室の中で過ごしておられました。

今年第七回目を迎えた京都の中信美術館での新作展。昨年も出品作品において関係者が心配をしている中、短期間で多くの作品を仕上げられ先生は、その後体



中信美術館での最後の新作展は「旅」と題されました。昨年暮れから今年春先にかけて描かれた作品と亡くなる直前まで描いておられた未完の作品を展示させていただきました。これら遺作となつた一連の作品に残された一筆一筆の痕跡と画面の表情からは、今までにない作品に対する先生の強い思いと執念を感じました。

今回残していただいた絵は、私たちに言い続けてこられた「絵の心」について、自らの作品を持って立証してくださった「先生の心」そのものであるように思え

【81歳】2001年4月 石正美術館（三隅町）が開館



開館以降、石本先生が直接指導をする  
「石本正絵画教室」を開催（2009年まで指導）



【87歳】2007年 「私を感動させた日本画」展開催



【88歳】2008年 「石本正子ども絵画教室」を開催



【90歳】2010年4月 石本が選んだ作品を収蔵展示する  
新館オープン



てなりませんでした。  
晩年の先生のモチーフは、これと言つて特徴のあるものではありませんでした。ごくごく普通の花や樹木が不思議な生命を宿し、鳥や人物、風景からは、愛をささやく声やそよぐ風の音が聞こえ、絵の前に立つと不思議な空氣に包まれてしまします。

石本先生はエッセー「西の空と東の空」で次のように自身のこれからを記されています。  
「夢が次々にふくらんでは消え、ふくらんでは消え、走馬灯のように回転しながらうに美しく、耀き、空中に吸い込まれ、がらうかんでいく。あるときは花火のよ

うに美しく、耀き、空中に吸い込まれ、がらうかんでいく。あるときは花火のよ  
先生と開館十五周年を祝うことは叶わぬ夢となりましたが、これを節目に「石本先生の心宿る館」として職員一同心新たに精進してまいる所存でございます。これまで多大なご尽力を賜りましたことに深く敬意を表し、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

生が残していただいた絵と、心は、私たちの心へ命の豊かさを語り続け、私たちと共に、これからも長い「旅」を続けていくことになります。

人生はどんなに意義があるかと思う。美に生きた石本正先生の遺言のように感じてなりません。

消えていくことが出来たら、これから的人生はどんなに意義があるかと思う。」



石本正 追悼特別展

# ふるさと

— 心うめる場所 —

「石見の自然の中に生きた血が

私のメチエールを作った」



「田ノ浦海岸」1936（昭和11）年頃 油彩画（個人蔵）

二〇一五年九月。浜田市三隅町出身の日本画家・石本正先生が九十五年の生涯に幕を閉じられました。実に七十五年の画業の中で数々の傑作を生み出し、絵一筋に生きた孤高の画家は、最期まで日本画の第一線に在り続けました。

そして今なお、その独創性に富んだ自由な表現と、世事にとらわれることなく己の美の世界を追求するひたむきな姿勢は、多くの作家に影響を与え続けています。

このたび、先生のご逝去を悼む展覧会として、先生が熱望したふるさとへの思いをご紹介するとともに、若き日（旧制浜田中学校時代）に地元の海を描いた貴重な作品「田ノ浦海岸」（昭和十一年頃、個人蔵）を特別展示いたします。

生前、自ら「心を埋める場所」と語つたふるさとの美術館で、豊かな自然の中で育まれた類稀な美的感性の源流を、画家の言葉を紐解きながら代表作とともにご覧に入れます。

2016年  
1月2日㈯▶3月13日㈰

## 「田ノ浦海岸」

島根県立浜田中学校4年生（16歳）の頃、胸を患っていた同級生をなぐさめるために、使っていた油絵具一式といっしょに贈った作品。

描かれているのは、石本がよく遊びに通っていた三隅町内の海岸。病気であまり外出できないであろう友人を想う優しさが伝わってくる作品だ。キャンバスではなく、木箱の蓋のような板に描かれている。

【開館時間】午前9時～午後5時 【休館日】月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）

【料金】＊共通券（本館と新館）◎一般700円（団体600円）◎高校・大学生300円（団体240円）◎小・中学生200円（団体160円）

\*本館のみ◎一般500円（団体400円） \*新館のみ◎一般400円（団体320円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金 ※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日に家族で来館された高校生以下の観覧無料

※1月2日（土）～1月29日（金）は本館のみ

主 催：浜田市立石正美術館 浜田市 浜田市教育委員会 公益財団法人浜田市教育文化振興事業団

ふるさとが育んだ美的感性と「感動する心」

そして誕生した名作の数々



「旅へのいざない」1951（昭和 26）年



「幡竜湖のおとめ」2002（平成 14）年



「瞿粟」1998（平成 10）年

石本正がふるさとへ遺した心

## 新館 石本正 デッサン特別展示

1月2日（土）～1月24日（日）

新館展示室にて、石本芸術の源・デッサンを特別展示いたします。

同時開催 第1回

## 石本正日本画大賞展

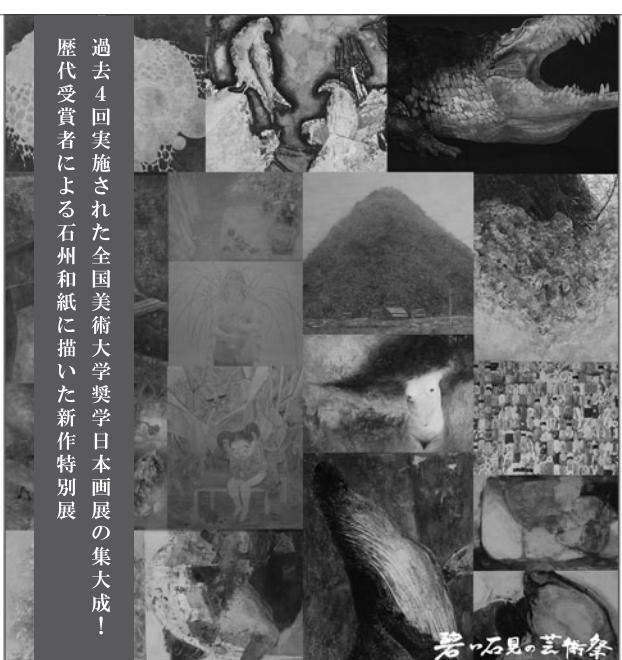
【審査員】  
竹内浩一  
小嶋悠司  
中野嘉之  
平坂常弘  
(石正美術館館長)

【新館展示室】

2016年

1月30日㈯～3月13日㈰

【主催】芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館



過去4回実施された全国美術大学奨学日本画展の集大成！  
歴代受賞者による石州和紙に描いた新作特別展

## 石本先生の大好きな花を、みんなで一緒に植えます、

みんなで一緒に植えますよー、みんな

レポート 「石正美術館に牡丹園を！」のTEP②③

### 「牡丹を植えるための場所を整えよー」・「牡丹を植えましょー」

「そりかあ、あそこの牡丹はきれいやからな。でも（作業を）頑張らずやつてや」

これは、先生が通り続けた無一莊牡丹園の牡丹を、石正美術館へ移植する計画について初めて石本先生にお話ししたとき、私達にかけてくださった言葉です。先生は絵を描くことについてよく「頑張つたらあかんぞ」とおっしゃっていましたが、絵以外のことでも同じように言われるんだなと、とても印象的に感じたことを覚えていました。

その後私達が先生の訃報を聞いたのは、牡丹を植えるための場所を掘り、栄養のある土をまぜて牡丹苗を植える準備がすっかり整っていた十月一日。ちょうど展覧会の展示替えを行っている最中でした。この時は、突然の事に言葉も出なくて、体温が指先からすうっと引いていくような感覚でした。美術館の今後のことなど様々な事が頭の中を巡るなか、牡丹ももうお見せすることができないんだな…ということを考えたりしていました。

先生のようになれる顔が見たくて始めたこの計画だったのに、花が無事に咲いても直接の報告できなくなってしまったことが本当に残念でたまりません。それでも先生の笑顔を思い浮かべながら、牡丹の花が咲く日を楽しみに待ちたいと思います。



9月 19 日（土）の作業の様子



現在（12月中旬）の牡丹苗の様子  
いまのところ、イノシシに掘られることもなく静かに休眠中

九月一九日（土）に行つた土壤の整備の回には、力の必要な大変な作業にもかかわらずボランティアとして五名の方が集まって下さって、皆で力を合わせて十三ヵ所の穴を掘り、土を入れ整えました。穴を掘りながら生えている芝や雑草を取り除いたりもしてなかなか大変でしたが、身体を動かすことで少しでも癒され、綺麗にひとつの土を見て満足感がありました。

それから約一ヶ月後の十月三十一日（土）には十一名の方が集まつてとなり、大根島から取り寄せた十三本の牡丹を植えました。牡丹苗に少しでも栄養がとくようじ、心を込めて周辺の除草もしてくださいました。

いま苗は、美術館の庭での冬を越えるために静かに休眠しています。集まつて下さったボランティアの皆さん、そして専門的な指導をいただきました地元造園業者の白須信男さんと佐々木茂豊さん、ご協力本当にありがとうございました。

来秋十月には、京都の無一莊牡丹園の苗を移植できるよう準備を進めています。先生の愛した無一莊の牡丹が遠く離れた先生のふるさとの土壤でちゃんと根付いて命をつなってくれるといいなと願っています。（横山）



10月 31 日（土）の作業の様子

# おとなのアートサロン

今年度五月から始めた創作体験「平日ワークショップおとなのアートサロン」。これまで多くの地域の皆さんにご参加いただきました。ご興味のある方、ぜひ一度会場をのぞきに来られませんか。「モノづくり」には興味があるけれど普段なかなか機会がない、という方お待ちしています。

「おとなのアートサロン」では「島根臨床美術の会」のみなさんの協力により、臨床美術のワークショップを開催しています。平成二十七年十一月十二日に第二回を開催しました。今回は「島根臨床美術の会」の吉川優子さんにそのレポートを寄稿いただきました。

## 臨床美術ワークショップ レポート

一回目となる臨床美術ワークショップはキャンドルホルダー作り。バッハの「ラール」を聞きながら、それぞれの願いや祈りを込め、透明なグラスに色を乗せていきます。赤青黄色の重なりで生まれる新たな色、心の赴くままに筆を走らせることで現れる形を楽しみながら真剣な作業は続きます。そして完成した作品に灯りを灯した瞬間、「わあ綺麗」と、思わず歓声が上がりました。「貴方の色素敵ね」「雪景色が広がっているようだわ」とお互いの作品を褒め合う微笑ましい光景も印象的でした。

脳の活性化には、視覚的、直感的な作業や芸術活動が効果的と言われています。しかし、ただ絵を描けば脳が活性化するわけではないようです。ベティ・エドワーズ（米）の研究によると、「ほとんどの人が左脳を使って絵を描いている」「右脳を使って描かせることで、才能に関係なく急速に絵が描ける」と説明しています。臨床美術はこの理論を取り入れ、さらに五感を刺激し、感じる事によって美術表現が可能になることを実践しています。そしてその期待される効果は、①認知症の予防、②認知症の改善・維持、③コミュニケーションの活性化、④表現し受容されることによって生きる意欲が増す、⑤描くこと、創ることが身近になるのです。回数を重ねる毎に、臨床美術ファンが増えていることを実感しています。是非一度体験してみませんか。



（島根臨床美術の会 吉川優子）

## 平日ワークショップ

### おとなのアートサロン

「思い出帳をつくりましょう」（スクラップブッキング）  
「行ける時だけ」「興味のある時だけ」の参加もできます。どなたでもお気軽にどうぞ♪



毎月  
第2木曜日 開催  
午後1時～3時  
石正美術館  
創作室



【主催】浜田市立石正美術館  
碧い石見の芸術祭  
(芸術と文化のまちづくり事業実行委員会)

### 「臨床美術」とは

独自のアートプログラムに沿って創作活動を行うことにより脳が活性化し、認知症の症状が改善されることを目的として開発されました。臨床美術士が一人ひとりの参加者にそった働きかけをすることで、その人の意欲と潜在能力を引き出しています。(中略)

認知症の症状改善を目標として始まりましたが、現在では、介護予防事業など認知症の予防・発達が気になる子どもへのケア・小学校の授業「総合的な学習の時間」・社会人向けのメンタルヘルスケアなど多方面で取り入れられ、いきいきと人生を送りたいと願うすべての人への希望をもたらしています。

(日本臨床美術協会ホームページより)

### 創作教室

昔ながらのお正月の遊び  
石州和紙で  
凧作りに挑戦！

1.3 日 13 時～15 時

材料費 500 円  
要申込み【定員】30 名



石州和紙で凧を作つてあげてみよう！

### 創作教室

古布で布ぞうりをつくろう

1.23 土 13 時～16 時

材料費 500 円  
要申込み【定員】15 名

※浴衣 1 着分くらいの古布（綿）  
があればご用意ください。  
布持参の方は材料費 100 円。



### 創作教室

スイーツ粘土  
バレンタイン  
ワークショップ

講師：琴野和世さん

スイーツ粘土の飾りをつけた  
ペン立てなどの小物を作ります！バレンタインの甘い（？）  
手作りプレゼントに挑戦してみ  
ませんか？親子でも、大人でも  
子供でも参加できます。

2.13 土 13 時～15 時



材料費 1,500 円 要申込み【定員】20 名

### ギャラリー展示

三隅中学校美術展  
1.16 土 → 1.24 日

最終日 1.24 は 15 時まで

石正美術館に隣接する浜田市立三隅中学校の美術展が開催されます。生徒のみなさんのこの一年間の創作の成果が発表されます。

主催：浜田市立三隅中学校

入場  
無料

### ギャラリー展示

WASHI HAT 展 + α

1.2 火 → 1.15 金 最終日 1.15 は 15 時まで

『石州和紙デザインコンペ 2014』にてしまね産業振興財団理事長賞に輝いた「石州和紙のキャンドルシェード」が「WASHI HAT」と名称を変えて「WASHI HAT 展」にて再びお目見えいたします。石本正先生の作品を用いて、デザインされた WASHI HAT を是非美術館にてご覧下さい。

+ αとして、『石州和紙デザインコンペ 2014』にて石州半紙技術者会賞を受賞した伊藤咲穂さんの「錆和紙」も進化した形で展示予定です。

受付開始 2.27 土 9 時～

電話にて申込み受付開始 TEL 0855-32-4388



### 浜田市美術展

【絵画第1部】

浜田市文化協会賞 狹間 壽幸

### 益田市美術展

【一般平面の部】

グサカベ賞 斎藤 理恵子  
奨励賞 名和川 泰子  
奨励賞 村岡 万子

### 島根県総合美術展 (島根県展)

【日本画の部】  
島根日本画協会  
会員賞 児玉 美智子  
「風の音」



このほか多数の受講生の方が入選しています。

### 公募展で多数受賞

石正美術館美術講座の「日本画教室」「初めての日本画」の受講生の方々が地域の公募展において多数受賞されました。  
主に教室で制作された作品が受賞をされたようです。今後のご活躍を期待します。

# SCHEDULE 石正美術館スケジュール

本館 展示室	新館 展示室	ギャラリー 【入場無料】	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
石本正くりかえす想い ↓ 12.23 水 祝	↓ 12.23 水 祝	いわみの冬至祭 <b>「光の回廊 2015～光の動物園～」</b> 会場：プロムナード・ギャラリー・ロビー・回廊・中庭	12.19 土 18時～19時 <b>「光の回廊コンサート」</b> 出演：Duoアフェッティ・SONOKO ピアノ：杉本孝一 （入場無料）
12.24 木 → 1.1 金 展示替え・年末年始休館 CLOSED			
石本正追悼特別展  ふるさと 一心うめる場所		<p>1.2 土 ↓ 1.15 金</p> <p>碧い石見の芸術祭 <b>WASHI HAT 展 +α</b> 主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 最終日 1.15 は 15 時まで</p> <p>1.16 土 ↓ 1.24 日</p> <p><b>三隅中学校美術展</b> 主催：浜田市立三隅中学校 最終日 1.24 は 15 時まで</p>	<p>1.3 日 13時～15時 <b>昔ながらのお正月のあそび 「石州和紙で凧作りに挑戦！」</b> （材料費） 要申込み</p> <p>1.14 木 13時～15時 <b>アートサロン 「思い出帳をつくりましょう」</b> 共催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 （材料費）</p> <p>1.16 土 10時～ <b>故石本正先生を偲ぶ会</b> 会場：浜田市三隅中央会館 主催：浜田市</p> <p>1.23 土 13時～16時 <b>古布で布ぞうりをつくろう</b> （材料費） 要申込み</p> <p>2.11 木・祝 13時～15時 <b>アートサロン 「思い出帳をつくりましょう」</b> 共催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 （材料費）</p> <p>2.13 土 13時～15時 <b>スイーツ粘土 バレンタインワークショップ</b> 講師：琴野和世さん （材料費） 要申込み</p> <p>2.20 土 13時～15時 <b>石本正日本画大賞展 授賞式</b> 主催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会</p> <p>3.10 木 13時～15時 <b>アートサロン 臨床美術 「満開の桜の大木（屏風仕立て）」</b> 共催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会 （材料費） 要申込み</p>
1.2 土 ↓ 3.13 日		1.30 土 ↓ 3.13 日	
3.14 月 → 3.18 金 展示替え休館 CLOSED			
石本正美の求道者 開館15周年記念特別展 (仮)		<p>3.19 土 ↓ 4.1 金</p> <p>あやとまゆみの部屋（仮） 最終日 4.1 は 15 時まで</p> <p>4.2 土 ↓ 4.15 金</p> <p>春の石見展（仮） 最終日 4.15 は 15 時まで</p>	<p>3.19 土 <b>開館 15 周年記念特別展 「美の求道者 石本正」（仮） オープニング・作品解説会（予定）</b></p> <p>3.26 土 14時～15時 <b>春のコンサート（仮）</b> （入場無料）</p> <p>4月初旬 14時～15時 <b>しだれ桜コンサート（仮）</b> （入場無料）</p>

## 「絵をかくよろこび」を伝える教室



### SEKISHO ART MUSEUM

#### 利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌日休館)

年末年始

(平成27年12月24日(木)~28年1月1日(金))

展示替え期間

(平成28年3月14日(月)~3月18日(金))

観覧料 展覧会によって異なります。

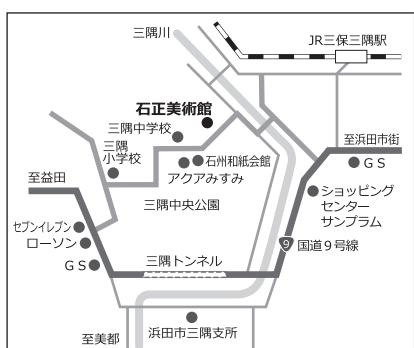
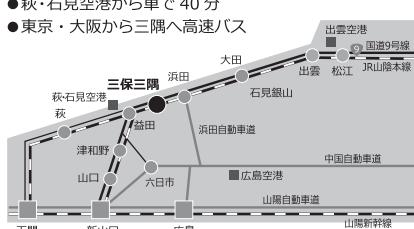
展覧会情報ページにてご確認ください。

※20名以上は回体料金。  
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

#### 石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分・ひやごるバス15分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICより車で30分
- 萩・石見空港から車で40分
- 東京・大阪から三隅へ高速バス



#### 石正美術館 ミュージアムニュース

#### アフロディア

No.127

Winter 2016

平成28(2016)年1月1日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589  
TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館

[facebook](#) 浜田市立石正美術館で検索



石正美術館では開館以来、石本正先生が直接指導する「石本正絵画教室」を開催してきました。教室は「裸婦デッサン」を中心に、石見の風景や動物などをモチーフとしてきました。教室は受講生とともに石本先生もいつしょに描くスタイル。「気楽に描くのがええんや」と、技術的なことは一切話されません。裸婦でも風景でも、先生は自身の制作に集中。誰よりも夢中になつて画面に向かう先生と同じ時間を共有するなかで、受講生も絵を描くことの楽しさを体感します。終了後、作品を並べての講評会でも「どの作品もすばらしい」と、それぞれの感動が描かれていることが大切だと話されていました。

京都からの移動の負担や、自身の制作に専念したいとの意向から、石本先生

の参加は平成二十一(2009)年第30回の教室が最後となりました。しかし、多くの受講生の要望もあり石本先生不参加のかたちで教室を継続。石本先生の理念を理解される作家の先生方の特別参加もいただきながら、平成二十七年十一月に四十九回を数えました。

石正美術館は今後も石本先生の残された「石本正絵画教室」を続けていきます。石本先生の精神を、「絵を描くよろこび」を伝え続けていくことを目指します。

春にはいよいよ、第五十回の教室を開催します。石本先生に師事された吉川弘先生(日本画家・京都造形芸術大学教授)にご参加いただく予定です。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

ふるさとが誇る画家の逝去を悼みたいという浜田市長の想いにより、浜田市が地元住民を中心、「故石本正先生を偲ぶ会」を開催する運びとなりましたのでご案内いたします。

#### ご案内



#### 故石本正先生を偲ぶ会

日時 平成二十八年一月十六日(土)  
午前十時~(受付九時)

場所 三隅中央会館  
(浜田市三隅町古市場五八九)

主催 浜田市立石正美術館名譽館長

※ご供花ご香資などの儀は固くご辞退申し上げます  
※当日は平服でお越しいただきますようお願い申し上げます

浜田市長 久保田 章市  
文化振興課 電話(0855)25-9730  
〒697-8501 島根県浜田市殿町一番地

▼その報せはあまりに突然で職員一同言葉がありませんでした。アトリエには制作途中の作品がたくさん置かれていたこと、自宅近くのお寺へお元気に散歩をされていたことなどを聞いていただけに、ただただ驚くばかりでした。▼「描きたいものがありすぎて困る」と話され、次々に新しい絵を描き続けてこられた石本先生には制作途中的作品がたくさん置かれていたこと、自宅近くのお寺へお元気に散歩をしていたことなどを聞いていただけに、ただただ驚くばかりでした。▼「描きたいものがありすぎて困る」と話され、次々に新しい絵を描き続けてこられた石本先生には制作途中的作品がたくさん置かれていたこと、自宅近くのお寺へ

この膨大な収蔵作品の展示を通して、より多くの方々に石本正の芸術世界を紹介していく。そうした石正美術館の使命を今あらためて実感しているところです。▼石本先生へされた本物の作品はこれからもたくさんの人に感動やよろこびを与えていただけると信じています。▼石本先生へ心からの感謝とご冥福をお祈りします。(職員一同)